

令和5年度 岸和田市市展委員会 第2回委員会本会 会議録

1. 名称	令和5年度 岸和田市市展委員会 第2回委員会本会
2. 開催日時	令和5年8月30日（水）午後1時30分～午後2時
3. 開催場所	岸和田市立文化会館 創作実習室2
4. 公開・非公開の別	公開
5. 出席者	西村委員長、仲村松堂副委員長、仲村和久委員、山本委員、西念委員、帯野委員、川崎委員 以上7名
6. 欠席委員	なし 以上0名
7. 事務局	田宮課長、太田主幹、森川担当員、清水担当員 以上4名
8. 傍聴者	なし
9. 次第	1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 案件 ①今年度の市展について ・実施結果報告 ・作品規格・作品解説について ②来年度（第75回）市展について ・賞について ・会期の組み合わせについて ③その他 4. 閉会
10. その他	
会議録承認	令和5年9月15日 承認

1. 開会 田宮課長よりあいさつ
2. 委員長挨拶 西村委員長より挨拶（進行）

3. 案件

① 今年度の市展について

○実施結果報告

- ・ 出品者数・出品点数・入場者数・広報活動などを報告。

○作品規格・作品規格について

- ・ 変更による影響はなし
- ・ 落款のある作品の出品の報告

② 来年度（第75回）市展について

○賞について

事務局

- ・ 出品者・出品数が減少している現在の状況に憂慮している。部門の廃止は避けたい。
- ・ 打開策として「岸和田市市展要項」で決められている佳作数を減らし、「奨励賞」の創設を提案。
- ・ 「奨励賞」は、若い世代の出品意欲を上げ、新たな出品者の増加を期待して、40歳未満を想定。

委員方の意見はどうか。

写真部門

ある写真のコンテストでは、若い世代の育成を目的として、今年度から奨励賞を創設している。奨励賞の創設に賛成。

一同

賛成。

○会期の組み合わせについて

事務局

- ・ 3期「書・日本画」、4期「陶芸・俳画」の「日本画」と「俳画」を入れ替えて、3期「書・俳画」、4期「陶芸・日本画」を提案。
- ・ 作品制作の影響を考え俳画出品者には、会期の変更を、第3回市展委員会で承認後に

案内送付を検討。

委員方の意見はどうか。

陶芸部門

陶芸部門は影響がなく、了承。

俳画部門

案内の送付を早めにするのであれば、問題なし。了承。

一同

了承。

事務局

・日程については、例年通り1期2週間を4期、計8週間で開催。

第1期洋画の搬入が5月9日（火）、会期は5月12日（日）～6月30日（日）の予定。

・第3回市展委員会で、市展募集要領の案を示す予定。

・現在の募集要領について作品規格や、注意事項の変更など、委員方の意見はどうか。
後日、ご意見があれば、11月末までに事務局まで。

一同

異議なし

○その他

委員長

各委員からその他、ご意見などお願いします。

洋画部門

出品点数の減少、特に若い人の出品の減少、若い世代へのアプローチとして「奨励賞」創設は打開策になると思うが、さらに他の方法も考えていく必要がある。

賞金を出している自治体もある。岸和田市でも賞金を出せないか。単純に賞金を出すだけでなく、賞の創設、賞金など多角的な策が必要。

募集要領の配布先など工夫をしているが、それでも、若い世代の出品には結びついていない。別のところに問題があるのではないか。その対策も必要。

委員長

様々な策を考え練ること、委員の意見も重要な観点であると思う。

陶芸部門

審査員の減少もあり、来期の審査は4人全員で行う予定。

同時に、審査員が出品を促す必要を感じている。

洋画部門

最近の傾向として、旧ツイッター、インスタグラム、フェイスブックなど、SNSでの発表が多い。

SNSの活用も、対策として検討すべき。

特に若い人は発表の仕方が根本的に違う。若い人が日常的にアクセスするものに、今の時代にあわせたものに、掲載するほうが、効果が高い。

岸和田市として、SNSを活用して作品募集することも必要。

事務局

「#(ハッシュタグ)」をどうつけるか。

受賞者の写真の掲載はホームページにのみ掲載。もし、SNSを採用するのであれば、SNSにも載せる了承を受賞者から得る必要がある。

また、現在の市展では会場では「写真撮影禁止」にしている。SNSに掲載することになれば、委員会で運用について相談が必要と考える。

洋画部門

今はフェイスブックよりインスタグラムが主流。画像での掲載が中心。

事務局

他事業も掲載するなど、更新のタイミングなどの入念な準備が必要。

洋画部門

情報の拡散には向いている。掲載内容によっては、若い世代の出品増加の可能性もある。

事務局

確かに、若い世代に事業を知ってもらわなければ様々な意味で世代交代ができず、事業の継続も難しくなる。

作品募集の方法等、新しい事を考えていく時期にきていることは認識している。

写真部門

堺市の賞金は市長賞の賞金は現金6万円、昨年は7万円。賞金は魅力的だと思う。出品料は1,000円、受賞作品以外は返却、展示もしない。受賞作品のみ展示するほど出品も多い。

事務局

以前、賞金についての意見が出たこともあり、賞金を出す自治体があることも承知している。近隣市の状況等を調べ、今後について検討していきたい。

委員長

委員の意見のように現状のままでは限界がある。新しい手段を考え、試みる姿勢が必要。

・今後の予定について

今年度の受賞作品展は、「姉妹都市韓国ソウル特別市区永登浦区芸術文化作品合同展覧会」として開催予定。

11月2日（木）の初日は、午前10時から午後5時まで、3日（金）は、文化の日の祝典があり、午前9時30分から午後5時まで、4日（土）は、午前10時から午後5時まで、最終日の5日（日）は搬出の関係もあり、午前10時から午後4時まで。

11月3日の文化の日祝典で市展受賞者を表彰する。

次回第3回委員会は12月中に開催する予定。内容は「今年度の受賞作品展及び文化の日の祝典についての結果報告」と「次年度の市展委員や募集要領について」となる。

4. 閉会